

# 1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790700060		
法人名	有限会社マイルドケア		
事業所名	グループホームたんぼぼの家Ⅱ		
所在地	香川県東かがわ市湊319番地1		
自己評価作成日	令和元年10月9日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和元年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様お一人お一人の能力を維持・向上できる支援を行っています。</li> <li>・利用者様の意思や個性を尊重し、思いやりの心で寄り添いのケアを提供しています。</li> <li>・年間を通じて行事やイベントを催し、季節感や地域とのつながりを感じることができる様に努めています。</li> <li>・利用者様の笑顔が見える、安心で家庭的な生活環境を提供しています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>地域との交流が盛んで、毎月、地域のボランティアが来訪したり、小学校の運動会に参加したりしている。また、クリスマスや敬老会には保育園児の訪問がある。今年は事業所から保育園を訪問しハロウィーンイベントを行った。毎年開催している夏祭りでは年々来場者が増え、地域住民で大いに賑わっている。職員のスキルアップや事故防止の徹底に努めるとともに、年度ごとにユニット目標と個人目標を策定するなど、職員一人ひとりが高い意識を持って働けるよう取り組んでいる。看取りにも取り組んでおり、終末期には家族や医師と話し合いを重ね、その人らしい最期を迎えることができるようチームで支援している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝・夕の申し送り時と月1回の全体会時に、理念を唱えている。 スタッフルーム内にも理念を掲げ、その意味についても具体的に説明を行い、常に意識をして業務を行っている。	首下げ式のネームの裏に会社の基本理念が記載されたものを入れている。また、スタッフルームにも理念を掲げ、朝・夕の申し送り時及び全体会の際に唱和している。加えて、年度ごとにユニット目標と個人目標を策定するなど、理念の共有と具現化に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年8月に夏祭りを開催し、地域・家族の方々にご参加頂いている。また、地域の小学校の運動会にも参加している。クリスマス会や敬老会などでは、地域の保育園から慰問がある。	毎月、地域のボランティアが来訪したり、小学校の運動会に参加したりしている。また、クリスマスや敬老会には保育園児の訪問がある。今年は事業所から保育園を訪問しハロウィーンのイベントを行った。毎年開催している夏祭りでは年々来場者が増え、地域住民で大いに賑わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活動状況報告を見て頂き、認知症への理解や支援方法について、助言が行えるように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、入居状況や行事などの取り組みの報告をしたり、地域の方々から情報やご意見をいただき、サービス向上に活かしている。	2か月に1回、開催している。入居者の状況に加え、職員研修会や事故防止への取り組みなど、詳細に報告している。利用者や家族から有用な意見が出ることもあり、会議をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の目的に鑑み、民生委員などの地域関係者の参加が増え、事故防止の徹底など、日頃の事業所の取り組みがさらに地域に認知されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、当事業所の活動報告を行うとともに、手続きや相談等で市に出向いた時に話す機会を持つようにしている。	運営推進会議に市の担当者や地域包括支援センターの職員が参加しており、その際に事業所の現状を把握してもらっている。また、法人の代表が市の地域密着型サービス運営委員会の委員をするなど、行政と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に全体会で勉強会を行い、身体拘束のないケアについて話し合っている。出入口に施錠はせずセンサーをつけ、出入りが分かるようにしている。	3か月ごとに勉強会を行い、身体拘束についての理解と意識付けを図っている。帰宅願望の強い利用者にも、一方的に行動を制止することをせず、一緒に散歩をしたり、見守りをしたりしている。また、転倒や転落のリスクに対してもセンサーマットなどを活用し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会等で話し合い、言葉の虐待にも注意し、全員の意識向上を図って予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学習し、必要に応じてご家族様に相談し、必要に応じた支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	親切・丁寧を念頭に、分かりやすい説明を心掛け、契約の段階から信頼関係の基礎を作れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時において出た意見や要望等を聞き、運営に反映するよう取り組んでいる。	運営推進会議に利用者や家族に参加してもらっている。また、家族の面会時には近況を伝えるとともに意見を聞いている。家族には月に1回、利用者の日々の状況を手紙で送るなど、信頼関係を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会・主任会・ユニット会において意見や提案が職員から集まるよう工夫し、反映できるよう取り組んでいる。	管理者は、利用者のケアや運営面について、日々の申し送りやユニット会の時に意見を聞いている。困難事例などは、施設長も相談に乗るなど、常に相談できる体制にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全体会・主任会・ユニット会に参加し、環境を良くする努力を続けるとともに、自己評価等において職員個々の実績や勤務状況を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会後に社内研修を実施し、職員の技術向上に努めている。また、社外研修への積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、そこの研修等に参加し、同業者との交流機会を持ち、サービス向上に努めている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前や利用するとき、可能な限りご本人様とお話し、要望を取り入れ、これまでの生活と変わらないようアセスメントをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談時より、ご家族様からの要望等に耳を傾け、信頼関係を築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点でどんなサービスが必要か、ご本人様やご家族様・居宅のケアマネージャーから詳しく話を聞きながら、ニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来ることは可能な限り取り組んで頂き、暮らしの中に役割を持って頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族様との連絡を密にし、面会時には状態の報告を行い、生活状況を把握してもらおうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活を聞き、知人等とどのような付き合いをしていたか、また、楽しかったことなどを教えて頂き、希望があれば馴染みの美容院の利用等の支援もしている。	家族の面会や友人の来訪を快く受け入れている。また、自宅への外出・外泊や馴染みの美容院の利用を支援するなど、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良き関係が築けるように、一緒にクラフトを行ったり、洗濯畳み等の作業を通し、楽しく生活して頂けるように支援している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居した場合でも、ケア・生活状況を細かく伝え、ご家族様とお会いした時でも声をお掛けし、状況を尋ねている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事・入浴などを無理に勧めることなく、常に職員間で話し合いながら、ご本人様の希望に添えるよう努めている。	食事・入浴・レクリエーション等、無理強いしないことを大切にしつつも、本人の心身の健康やQOLに留意しながら、希望に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活・家族・友人のことを聞きながら、楽しい時間や落ち着かれる時間がどういう時かアセスメントし、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の日常を介護記録に記載し、状態の把握に努め、実施する時はご本人様ともお話しして、理解をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直し時に担当者会議で意見を出し合い、ご本人様の希望を汲み取り、生活がしやすいように見直しを行っている。	職員に意見を聞きながら、半年に1回評価を行い、本人や家族にも希望を聞いて、1年ごとに計画を見直している。計画の実行状況は、職員が毎日記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今までのアセスメント、個別記録、食事量などをもとに、改善点等を職員間で話し合い、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの訪問時に、通所や他ユニット間との交流を行っている。 また、ご本人様やご家族様の了承の上、買い物や散歩等を行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日には近隣散歩に出かけたり、訪問販売の利用などにより、心身ともに豊かな暮らしができるよう支援している。また、ボランティアの方々に来所していただく機会を多く設けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じてかかりつけ医と各状況において連絡・相談し、情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医との関係を大切にしている。主には事業所の看護師が受診の支援をしており、病院との関係を築いている。受診が難しい利用者については往診もある。夜間や休日にも対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師がいて利用者様の状態を把握し、介護職員と健康管理等の情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時にはサマリーを作成し、入院先へお渡しして、必要に応じて病院のスタッフより情報をもらうとともに、入院中も面会を頻回に行い、退院後の支援に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針について、ご家族様に説明を行っている。状態の変化時にはご家族様と職員で話し合い、主治医からも助言を受け、状況に応じた対応をしている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」により、説明・同意を得ている。状態が変化したらその都度、話し合いを重ねている。終末期には協力医が頻繁に往診に来てくれ、その人らしい最期を迎えることができるようチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って対応方法の確認をしている。全ての職員が応急手当等ができるよう、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、職員が入居者様と避難訓練を行い、避難経路や消火器の使用方法などを確認し、災害時の地域協力についても話し合いをしている。	年2回の訓練のうち、1回は消防署立ち合いのもと実施している。1週間分の飲料や食料など備蓄を備えている。津波等に備え、近隣の企業に避難させてもらえるよう協力体制を築いている。	災害時、とくに夜間の火災を想定した場合、屋外への避難誘導後に見守り等が必要であり、近隣住民の協力が得られるとなお安心である。近隣住民を交えての訓練に向けて検討されたい。

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で意識し、注意をし合って言葉遣いにも気を付けている。	接遇やマナー研修を実施して、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。家庭的な雰囲気大切にしながらも、馴れ合いにならないよう留意している。言葉遣いなど、気になることがあればその都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いの汲み取りができるように常に傾聴に努めるとともに、意思表示や自己決定ができるように、声掛け等の対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課についても、必ずしも時間通りでなくても良いことをご本人様にお伝えし、日々の体調や希望に応じた援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時の服選びやお化粧など、おしゃれを楽しみながら生活できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはお盆拭きやテーブル拭きなどを行って頂いている。 食レクでは食べたい物を皆で一緒に調理をし、食べることを楽しませている。	事業所で調理専門の職員が調理している。食事は品数が多く、また食器にもこだわり、見た目にも楽しめる。週に2回、肉か魚を選べる選択食を取り入れている。また、食レクと称して、利用者の希望のメニューを職員と利用者がいっしょに調理する機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下の状態に応じて食事の形態を変更する等の工夫を行うことで必要な栄養が摂れるようにしたり、ジュースやゼリーでの水分補給にも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて歯ブラシや口腔ケアスポンジなどで口腔ケアを行っている。義歯も消毒し、管理をしている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら声掛けし、トイレ誘導するなど、出来る限りトイレでの排泄ができるように支援している。また、腸の働きが良くなるように、体操や歩行運動を支援している。	早め早めの声掛け、誘導により、失敗を防ぐよう支援している。便秘対策として、体操や歩行運動、散歩や水分摂取など、その人に応じた工夫をして排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因となる運動不足・偏食・水分量等について1人ひとりを見直し、水分量のチェックしてバランスよく召し上がって頂けるように声掛けを行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様毎の基本パターンはあるものの、ご本人様の希望や体調等を考慮し、個々にそった支援をしている。	週に2回、入浴できるよう支援している。曜日や時間はおおむね決まっているが、その日の気分や体調などによって日をずらすなど、柔軟に対応している。入浴が楽しめるよう入浴剤を使うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆっくりと過ごしたい時や横になりたい場合等には、自由に休むことができるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットチェック、服薬時のチェック表を看護師が中心になり、管理している。介護スタッフも効果と副作用が分かるように説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれに合った役割を見つけ、お手伝いをして頂いたり、それぞれの好きな事を把握し、ご自分の役割を持てるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は施設外へ散歩に出かけたり、買い物の好きな利用者様とは一緒に買い物する等、外出の機会を設けている。紅葉ドライブや桜・あじさい・菖蒲等の季節の花を見学したり、遠足等で外出をしている。	日頃は事業所周辺を散歩したり、外食や近くのスーパーに買い物に出かけたりしている。また、桜や菖蒲等、季節の花を見にドライブにも行っている。秋には、年に一度、併設の事業所も含め、利用者や家族総出で、県外に遠足に出かけている。	



50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様には自由に買い物をして頂いている。職員は常に付き添い、金銭管理ができる方や難しい方それぞれに応じた支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族やご友人に自らの携帯電話で連絡を取られる方もいらっしゃいますが、ご自分でかけられない方に対しては職員が支援をしている。手紙の代筆や宛名書き・投函等も支援をしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>過ごしやすい室温調整を心掛けている。日々の様子や行事・外出時の写真を飾ったり、季節毎の利用者様手作りの作品を飾っている。また、トイレの入口には目印を付け、明るく分かりやすい環境作りをしている。</p>	<p>食堂は、明るく家庭的な雰囲気です。行事の際の写真や、職員と利用者が共同で作った作品が掲示されています。キッチンからは調理の音や匂いがして、生活感を感じることができます。また、畳の間もあり、そこでくつろぐことができます。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間は広く、テーブルを3つ置き気の合う利用者様同士で同じテーブルを利用できるように配慮をしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日居室内の清掃を行い、清潔にしている。また、整理整頓を心掛け、ご自分が作られた作品やご家族様の写真を飾ることで心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>	<p>整理整頓と清掃を心がけ、快適に過ごせるよう支援している。居室にソファやテレビを持ち込んだり、自身で作った作品や家族の写真を飾るなど、その人に合った部屋作りを心がけている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共用部の壁際には全て手すりがついており、安全に生活ができるようになっている。利用者様それぞれに、洗濯量み等の出来る作業は、分担して行って頂いている。</p>		